



2018年12月26日

各位

会社名 株式会社パシフィックネット
代表者名 代表取締役社長 上田 満弘
(コード番号 3021 東証第二部)
問合せ先 取締役副社長 大江 正巳
(電話番号 03-5730-1442)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2018年7月13日に公表した2019年5月期（2018年6月1日～2019年5月31日）の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 2019年5月期第2四半期業績予想数値の修正（2018年6月1日～2018年11月30日）

(1) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,210	105	100	66	12.75
今回修正予想 (B)	1,954	115	114	62	11.98
増減額 (B - A)	△256	10	14	△4	—
増減率 (%)	△11.6	9.2	13.8	△6.8	—
(ご参考) 前期実績 (2018年5月期)	2,187	64	63	38	7.37

(2) 個別業績予想

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,040	85	56	10.82
今回修正予想 (B)	1,786	108	101	19.51
増減額 (B - A)	△254	23	45	—
増減率 (%)	△12.4	27.1	80.3	—

2. 2019年5月期通期の業績予想数値の修正（2018年6月1日～2019年5月31日）

(1) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	4,500	310	300	200	38.65
今回修正予想（B）	4,100	310	300	200	38.65
増減額（B－A）	△400	－	－	－	－
増減率（％）	△8.9	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （2018年5月期）	4,431	238	238	158	30.67

(2) 個別業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	4,150	284	189	36.52
今回修正予想（B）	3,800	284	189	36.52
増減額（B－A）	△450	－	－	－
増減率（％）	△10.8	－	－	－
（ご参考）前期実績 （2018年5月期）	4,286	233	161	31.30

3. 修正の理由

2020年1月に予定されているWindows 7のサポート終了に対応したパソコンの入れ替え需要は拡大しておりますが、半導体メーカーから供給されるCPUの世界規模での不足・需給ギャップが顕著になっており、企業での新品パソコンの導入遅延が拡大しております。

この結果、使用済みパソコンの回収台数が当初予想よりも低位で推移し、フロー収益であるリマーケティング事業（IT機器リユース販売事業）の売上高が当初予想より下回って推移しております。CPUの不足傾向は今後半年程度続くとの予想もあり、リマーケティング事業の売上高の本格的な拡大は来期以降となる見込みです。

一方、中期経営計画「SHIFT 2021」の最重要課題である「ストック収益拡大・収益力強化」については順調に推移しております。ストック収益の柱であるLCM事業（※）は、CPU不足の影響を受けながらも順調に拡大するとともに、リマーケティング事業（IT機器リユース販売事業）についても、前期の店舗事業撤退をはじめとした選択と集中、継続的に実施している生産性向上施策の効果から、利益率は向上しております。

※LCM：ライフサイクルマネジメント

IT機器の導入、運用・管理、使用後の機器の排出を管理する仕組み

ストック収益（LCM事業）の拡大は将来収益の拡大、中期的成長の基盤となりますが、単年度業績はフロー収益の影響が大きいことから、連結業績・個別業績とも、売上高については前回発表予想を下回る見込みとなりました。

一方、各利益については、収益構造変革の効果から概ね前回発表予想の通りとなる見込みです。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上